

(様式7)

公共事業継続箇所評価調書

評価確定日(平成16年11月22日)

事業コード	H16-建-継-32			区 分	国庫補助・県単独
事業名	火山砂防事業			部 局 名	建設交通部
事業種別	砂防えん堤工			課 室 班 名	砂防課 砂防班 (tel) 2532
路線名等	二級大沢川水系 寒沢川			担当課長名	芳賀 正廣
箇所名	由利郡仁賀保町院内			担当者名	主幹(兼)班長 秋元 良三
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり	
	施策コード	2	施策名	災害に強い県土づくり	
	目標コード	5	施策目標名	土砂災害危険箇所整備率	

1. 事業の概要

事業期間	H 8 ~ H17 (10年)	総事業費	21.8 億円	国庫補助率	5.5 / 10		
事業規模	砂防えん堤4基 床固工2基 溪流保全工L=645m						
事業の立案に至る背景	<p>当溪流は由利郡仁賀保町院内に位置し、保全対象として災害弱者関連施設(保育園)・人家82戸・町道等を抱える土石流危険溪流である。</p> <p>近年の豪雨により流域内は溪岸侵食や山腹崩壊が多く倒木も認められており、また溪床には最大2m程度の巨石が不安定に堆積しているため、今後の豪雨等により堆積土砂が土石流化する恐れが懸念されていた。また、下流保全対象には多様な公共施設があるため、土石流発生の際は甚大な被害を及ぼすことになる。このことから、砂防施設整備をもって土砂災害から住民の生命・財産を保全するものである。</p>						
事業目的	<p>【主たる目的】 土石流を砂防えん堤で捕捉し、下流域に暮らす住民の生命・財産を守る。</p> <p>【保全対象】 人 家 82戸 町 道 L=1,500m 耕 地 8.70ha 公共施設 派出所・郵便局・公民館・保育園等</p>						
事業費内訳	(単位:千円)						
事業内容	事業費	全体	H15年度迄	H16年度	H17年度	H18年度以降	
	経費内訳	2,180,000	1,850,000	150,000	180,000	0	
	工事費	1,517,000	1,297,000	87,000	133,000	0	
	用補費	458,000	356,000	58,000	44,000	0	
	その他	205,000	197,000	5,000	3,000	0	
	財源内訳	国庫補助	1,199,000	1,017,500	82,500	99,000	0
	県債	882,000	749,000	60,000	72,000	0	
その他							
財源内訳	一般財源	99,000	83,500	7,500	9,000	0	
事業内容		詳細設計 用地補償 砂防えん堤工 溪流保全工	溪流保全工	溪流保全工			
事業推進上の課題	特になし						
上位計画での位置付け	「あきた21総合計画」第2期実施計画において、「災害に強い県土づくり」の施策として位置づけられている。						
関連プロジェクト等	特になし						
事業を取り巻く情勢の変化	今年7月の「新潟福島・福井豪雨」や10月の「新潟県中越地震」に見られるように、土砂災害に対するハード・ソフト一体となった砂防施設整備が急務となっている。						
事業効果把握の手法及び効果	指標名	土砂災害危険箇所整備率			データ等の出典	危険箇所調査結果	
	指標の種類	成果指標 (業績指標)					
	指標式	概成箇所数 / 危険箇所数			把握の時期		
	目標値 a	24.9%					
	実績値 b	20.8%					
	達成率 b/a	83.5%					
					平成16年 3月		

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価点
必 要 性	砂防えん堤は、土石流の発生・流下を抑制する最も有効な手段である。 当溪流は地元住民から対策を要望されている。 砂防法第5条により工事の施行は都道府県が行うものと位置付けられている。	20点
緊 急 性	流域内からの土砂流出は顕著であり、堆積した土砂の土石流化が懸念されるため、早急な砂防施設整備が必要である。 「あきた21総合計画」第2基実施計画において、整備率の向上が必要な土砂災害危険箇所位置付けられている。	0点
有 効 性	砂防施設を整備することにより、土砂災害から人命・財産が守られ、安全で安心して暮らせる地域が創出される。 土石流危険溪流の整備率向上に寄与する事業であり、施策目標への貢献度は高い。	10点
効 率 性	事業の費用便益は2.79であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 18.23億円 ・総便益の現在価値 50.90億円 砂防えん堤をスリットタイプにしたことや、溪流保全工に再生骨材を活用したことによりコスト縮減を図っている。	35点
熟 度	地元要望も強く、事業に対しても協力的である。	20点
判 定	ランク (○) 土石流危険溪流であることから、整備後の有効性は高いため、引き続き実施すべきである。	85点
総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業継続は妥当である	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

事業を継続する。事業実施に当たっては、引き続きコスト縮減に留意する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価および対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所 (継続箇所)

事業コード (H16 - 建 - 継 - 32) 箇所名 (火山砂防 寒沢川)

適用事業名 砂防事業

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	県民のニーズ				
	県民のニーズの変化	変化なしまたは増加している	20	20	
		若干低下している	10		
		非常に低下している	0		
計			20		
緊急性	危険度				
	斜面、溪流等の危険度	変化なしまたは増大している	10	0	崩壊進行、地下水位上昇等 地下水位の低下、残斜面の安定性等
		若干低下している	5		
		非常に低下している	0		
計			0		
有効性	災害発生時の影響				
	保全対象数の変化	変化なしまたは増加している	10	10	
		若干減少している(80%以上)	5		
		非常に減少している(80%未満)	0		
計			10		
効率性	事業の効率性・進捗状況				
	費用便益分析(B/C)	2.0以上	10	10	B/C = 2.79
		1.0以上2.0未満	5		
		1.0未満	0		
	事業の進捗状況	計画どおり進捗している(100%以上)	10	5	
		概ね計画どおり進捗している(70%以上100%未満)	5		
		計画より遅れている(70%未満)	0		
	対策工法、工事に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	10	10	
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	5		
		課題はあるが、解決する見込みである	3		
課題解決の見込みなし又は事業が停滞している		0			
コスト縮減計画	具体的なコスト縮減計画がある	10	10		
	具体的な計画はないが、検討中である	5			
計				35	
熟度	地元の協力状況				
	地元住民・関係自治体等に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	20	20	用地、補償物件等
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	10		
		課題はあるが、解決する見込みである	5		
		課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0		
計				20	
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	85	
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		